

# 都中P通信

NO. 11

発行 平成 23 年 6 月 東京都立中学校PTA協議会 会長 水上 幸夫

「会員の皆様・・・」

都中P会長 水上幸夫

会員の皆様、日頃から都中Pの活動に対してご理解・ご協力ありがとうございます。

この一年間の歩みと今後の予定を報告させていただきます。

先ず一つめは今年で3年目になります都庁第一庁舎45階南展望室で行ないました都中P活動紹介の場『都中Pフェア』です。広報紙コンクール、お弁当コンクールの表彰式を始め、単位PTA活動紹介、派遣委員会の紹介等を2日間かけ、全都に向けてアピールさせていただきました。今年はお弁当コンクールの取り組みに区切りをつけ、「給食」について取り組み、8月9～10日「都中Pフェア」で一部の報告を行なう予定です。

二つめは理事会開催を各地区巡回し、各地区の雰囲気や現状を知るよい機会になるよう実施しました。また、同時開催の「PTAアカデミー」では、都校長会のご協力も得ながら特別支援学級のことや普段なかなか、取り組むことのできない性の問題に向き合う研修会を実施しました。研修会を通し、学校が抱えている問題点や親子が向き合うことの大切さを学びました。今後も各地区に移動しながらの理事会・PTAアカデミーを予定しています。

三つめは都中Pの活動や情報が末端会員まで伝わらない現状を踏まえ、広報紙の他に「都中P通信」を毎月発行しました。各地区P連を通して各単位PTA、各PTA会員に配る取り組みです。(インターネットによるデータ送信) 都中Pや日Pの年間の動きがタイムリーに発信できるツールとして今後も続けていきたいと考えております。

## 5月PTAアカデミー

日時：平成23年5月18日(水)19時～20時10分 場所：板橋区立板橋第一中学校ランチルーム

「教員の人事配置について」 ○小1問題・中1ギャップについて ○被災地支援の教員について

講師：武蔵野市立第六中学校長 田口康之氏

- ◆ 教員の異動については、管理職不足が大きな課題となっている。
- ◆ 新学習指導要領の本格実施や、いじめ等の学校教育上の課題に適切に対応し、教員が子ども一人一人に向き合う時間を確保することにより、子どもたちの個性に応じたきめ細やかで質の高い教育の実現が急務なため、国は、平成23年度より小学校1年生の35人学級を実施。学級編制の標準の引き下げは、現行の40人学級がスタートした昭和55年以来30年ぶり。
- ◆ 小学校1年生の35人学級の実現により全国で4000人の教職員が増員される。  
また、教員定数により副校長、養護教諭、事務職は増えていかざるを得ない。
- ◆ 東京都では40人学級の基本的な考えとして、学級には一定人数の関わりが必要であるとし、少人数学級ではなく、少人数指導(T・T=チームティーチング)習熟度指導の充実を計ってきた。  
東京都の小学校では186校が対象であるが、学級増で対応したのは75校、その他はT・Tで対応される。
- ◆ 子どもの減少により空き教室があるようなイメージだが、一方35人学級を要する学校においては、教室の不足も深刻な問題である。

東日本大震災による被災地支援のため、東京都は、平成23年5月9日から24年3月31日まで、小学校35名、中学校20名、高等学校、特別支援学校15名の教員を宮城県に派遣しています。

困難が予想されるなか、被災地に派遣される教員の皆様には、敬意を表するとともに、宮城県の子どもの笑顔のために頑張ってくださいと思います。

そして、東京に戻ってからは、被災地での経験を生きた教科書として、子どもたちに伝えていって欲しいと思います。

## 1年を振り返って《委員会から》

### 【総務財政委員会】

この1年を振り返って、まず退会による会費の収入が大幅に減ってしまった事です。私達の努力がたりなかったと反省しております。また、委員長任期半ばでの交代など、いろいろな出来事がありました。未加入の区、市の方たちへの働きかけも中途半端になってしまい次年度への課題となりました。ですが、明るい話もあります。「セイフティプラン24」のチラシの配布や保険代理店の方と一緒に新入生に対しての説明を行い、昨年よりも申し込みの件数が増えてきています。保険加入にあたっての集金事務費が都中Pの収入になり、活動を支えています。私たちが「保護者の立場」で中学生のために作り、団体だからこそそのメリットである保険制度「セイフティプラン 24」を来年度も今年以上に積極的に働きかけていきたいと考えております。その節は是非皆様のご協力をよろしくお願いいたします。さらに日Pの会費値上げがありますので、しばらくは財政の苦しい時期が続くと思われます。皆さんと石にかじりついてでもこの危機を乗り越えていきましょう！

### 【研修委員会】

研修委員会では、7月より検討をはじめ、10月16日にPTAアカデミーとして「共に育ち、共に生きる」というテーマで、女流棋士石橋幸緒 氏の講演と特別支援教育を考える意見交換会を開催しました。石橋さんの「多くの人に支えられて生きる力を得た」というお話をベースに、障害の有無にかかわらず、すべての子ども達が、お互いを認め合いながら共に育つ、とはどういう事か、さらに学校に直接関わるPTAが、どのように支えて行くことができるのだろう、と考える機会となりました。討論にご参加いただいた特別支援教育コーディネーターの安部博志氏には現場で抱える問題を詳しくお話しいただき、大変勉強になりました。

11月実施のPTAアカデミーを都の委託事業である中学校PTAリーダー研修会とし「性」の問題を取り上げました。学校現場での取り組みや家庭での様子など、講師を交えたミニ研修を行い、多くの皆さんへの参加呼びかけ、当日研修会の意見交換会での司会進行と、活動してきました。なお、都とのやりとりの関係上、運営委員も研修委員会の活動に加わりました。

### 【特別委員会】

この特別委員会立ち上げは年度途中に行われ、委員会は新年度引き続き活動していきます。次年度の都中P事業について企画し、その事業の運営にあたります。事業の一つに「都中Pフェア」があり、都中Pの活動を広く知っていただく機会と捉えています。都庁第一庁舎 45階南展望室の3箇所の展示スペースを使用して22年は8月4～5日に開催し、準備・設置・片付けには地区P連の皆様のご協力もいただきました。また展示の他、広報紙コンクール、お弁当コンクールの表彰式も行ないました。

- ①都中P、世田谷P連、単P(都教委推薦PTA)、中親会の活動紹介。コンクール受賞広報紙の展示。
- ②各種都立高校、警視庁のフィルタリングの内容、犯罪被害者等支援の内容などの展示と質問への対応。
- ③学校給食レプリカ展示。コンクール受賞レシピの展示。

都中Pの活動をもっと一般の方にも身近に感じていただきたいの思いがあり、続けていきたい事業の一つです。特別委員会では継続に向けて話し合いを行い、本年は学校給食をテーマに動き出しました。8月9～10日開催の都中Pフェアには多くの皆様に来ていただきたいと思ひます。また、P連の皆様には今年もご協力をよろしくお願いいたします。

### 【広報委員会】

今年度の主な活動は広報紙77号の発行とほぼ月1回の「都中P通信」の発行です。特に「都中P通信」は、都中Pの活動を多くの人に知ってもらうため、またタイムリーに知らせる目的で新たに取り組みました。単Pでも全会員に配布しやすいA4サイズ1枚としました。内容も都中Pの活動のほか、今、知らせたいこと、社会情勢に合ったことを中心に掲載しています。皆様の活動にお役立ていただけましたでしょうか。広報委員会はこれからも活動紹介や情報を皆様にお知らせしていきます。1年間ありがとうございました。

\*「都中P通信」はパソコンでも見られるよう都中PのHPにもアップしていますので、ご利用ください。

### 「セイフティプラン24」

都中Pが厚生事業として運用している会員向け団体保険。会員個人で加入。犯罪被害にも対応しており、東京都の「犯罪被害者等支援を進める会議」においても、他保険ではあまりない被害事故補償(交通事故含む)を打ち出した保険として高い評価を得ている。加入、問い合わせは都中Pまで。jpta@Tokyo-Jpta.org